浜松アーツ&クリエイションでは、さまざまな場所で、いろいろな方にお話を伺っています。
今号では、伺ったお話のいくつかを紹介させていただきます。

みかわや｜コトバコ

https://mikawaya-kotobako.com/

浜松市中区尾張町にある、食堂、製本所、モーニングコーヒースタンド、野菜の販売、英会話教室、本棚まである複合店舗。

管理人の大端将さんが「使われていない建物があるともやもやする」とお話くださったのが、とても印象に残っています。
大端さんはリノベーションスクール(https://hama-rino.com/)に参加したのがきっかけで、「三河屋」のオーナーと縁ができ、2年位で「みかわや｜コトバコ」のオープンとなったそうです。

最初は、一人でオーナーさんから借りていたんですけど、何をしたらいいか決めていなかったので、3年くらい放置しようと思っていたんですよ。2～3年かけて色々考えていこうと思いながら掃除をしていたら、ここで活動したい、一緒にやりたいって言ってくれる人が増えてきて、現在に至っています。場だけ開いたら、やっぱり、やりたい人は来るんだなって思います。

「みかわや｜コトバコ」は食堂や製本所、野菜の販売など、珍しい組み合わせの複合店舗です。

コンテンツはそれぞれにお任せなんです。僕としては、建物を再生することが一番の目的で、やりたかったことなので、再生するための中身については、それぞれの事業者にお任せという感じです。使われない家があるのに、新築が建っている現実の方に違和感があって、もやもやします。そういう意味では、中で何かやりたい人と、建物を動かしたい僕と、上手く棲み分けが出来て、結果フィットしているみたいなところはあるかもしれないですね。

近くに八百屋さんが無くなっちゃって、おばあちゃんが遠くまで行けないから、野菜市の時はここに必ず買いに来てくれたりとか、若い子達もここに興味を持ってくれたりとか、地域のおじいちゃんおばあちゃん、子どもまで来るいい場所に結果的になったなって思います。

こういう緩やかな集まりが、意外と良い方に働くことがあるなと思っていて、それぞれ得手不得手があって、連携を取りながら、小さなチームを作ることで動いていったのもありますね。

尾張町は昔ながらの店舗もたくさんあり、「みかわや｜コトバコ」がどのように進化していくのか、今後が楽しみです。

建物の再生って、本当は建物だけをどうにかしてもダメだなと思っていて、街そのものの再生が出来ると、資本が街に入ってきて、プレイヤーがもっと増えて、建物を使いたい事業者が入ってきて、結果的にいろいろな建物が良くなっていくだろうと思っているので、「みかわや｜コトバコ」が基点にはなるんですけど、街全体で考えていきたいです。本当にやりたいのは、尾張町全体をリノベーションすることですね。

粋衣

https://siisow.thebase.in/

「遠州織物」を生地に用いて、洋服やバッグなどを製作しているブランド「粋衣」。「遠州織物」の風合い、素材感、生地の良さを生かしたデザインが特徴。
コンセプトは「自然・調和・暮らし」。「遠州織物」という魅力的な素材の価値を、地域の人たちに再発見してもらい、地元の方にこそ着ていただきたいという想いと、製品になるまでの過程の背景にある、人の「つながり」を結びつけ生まれたのが「粋衣」だ。
糸が生地になり、生地から製品になるまでには、いくつもの工程と、大勢の人の手が掛かり、その仕事が「人の暮らし」を支えている。こうした繊維の産地の循環が未来にも受け継がれ、地域の発展に繋がることを願い、地域の人やモノごとに配慮したモノづくり、「エシカルなモノづくり」を目指している。

「遠州織物」が出会わせてくれたモノづくり仲間に、自分らしい働き方を獲得して欲しいと願い、「粋衣」を通して、様々な働き方を後押ししているデザイナー兼ブランドプロデューサーの橋本さわこさんにコメントをいただきました。

遠州織物という存在を、新しい世代(生産者だけではなくモノづくりのクリエーターも含む)が引き継いでいく中で、「粋衣」は、生地の魅力を「粋衣」らしい形にして伝えることはもちろん、製品が出来上がるまでのモノづくりの背景にある「つながり」に価値を見出しています。たとえば、「生地を扱う仕事をしたい」、「縫製を仕事にしたい」、そんな好きな仕事を続けられる仕組みを作ったらどんなに楽しいだろう。

「粋衣」に携わる女性たちが得意分野を持ち合い作っているのは、自分たちの「よろこび」や「愉しみ」、何より、モノづくりを通した「つながり」を映し込んだ製品であり、同時にそれぞれのキャリアや技術を映し出した製品でもあります。

働き方の多様化という時代の流れの中、女性の中には妻、嫁、母親という役割が働き方に大きく影響する人も多く、その中でも身体の自由に制限があったり、治療を受けながら働く人もいます。家事、子育て、介護、治療などと両立させながら、自分の愉しみやよろこびを得る働き方と言うのは簡単には見つからないかもしれません。

私は、デザインを通して心豊かな暮らしに貢献したいと思いデザイナーになりました。「粋衣」のブランドプロデュースはそんな想いのアウトプットです。

「粋衣」があることで生まれる少ない仕事でも、何かのきっかけになればと楽しみながら続けていきたいと思っています。

「粋衣-swi-」くつろ着

「粋衣-swi-」アズマバッグ

ユーフォニアム奏者｜山崎由貴さん

浜松海の星高等学校(現:浜松聖星高等学校)卒業後、名古屋音楽大学器楽科を首席卒業、東京藝術大学別科を修了し、2018年に続き、チェジュ国際金管打楽器コンクールユーフォニアム部門2020で第3位を獲得した山崎由貴さんにお話を伺いました。

―チェジュ国際金管打楽器コンクールユーフォニアム部門第3位入賞、おめでとうございます！コンクールに挑戦するのって、大変じゃないですか!?

韓国のチェジュで行われたこのコンクールは、金管楽器の登竜門と言われています。国際コンクールに参加すると、世界で活躍している一流の演奏家である審査員に自分の演奏を聴いていただけたり、世界中にお友達ができて、日本では誰もやらないような練習方法を教えてもらえたり、本当に魅力的な機会だと考えています。高校時代、人前で演奏する回数が多かったので、舞台慣れしてしまったのか、あまり緊張もしないんです。

―ユーフォニアムの魅力ってどういったところでしょうか?

小学校の頃、初めてユーフォニアムを見たときは、「え、なに、この楽器」って思ったのですが、一回吹いてみたら虜になってしまいました。小学生の頃は、いい音で、落ち着くなぁと漠然と思っていましたが、今では自分の出来ることも増えてきて、当時は一つの音しか出せなかったのが、嬉しい音だったり、悲しい音だったり、色々な音色を出すことができるようになって、表現力のある楽器だなと思っています。ユーフォニアムは本当にオイシイ楽器で、メロディーも、伴奏も、裏旋律も吹いてって、何でも出来るんですよ。こんなにオイシイ楽器はないのにと思うんですけど、なかなか、その魅力が伝わらないですね。ユーフォニアムはトランペットやホルンなどの楽器に比べて歴史が浅いので、今、歴史を刻んでいるような楽器で、まだみんなが知らない新しいユーフォニアムの魅力を自分が見つけられるかもしれないと思っています。

―今後、チャレンジしたいことはありますか?

浜松がすごく好きなので、浜松のためにできることがあったらいいなと思っています。中学生の頃、浜松市中学校選抜吹奏楽団に入っていて、他校との交流や遠征先での演奏など、貴重な経験ができたので、音楽が好きな中高生のためになるようなことも今後は考えていきたいです。自分の演奏技術もどんどん磨いていきたいし、ユーフォニアムの素敵なところをたくさんの人に知ってもらいたいなと思っています。それから、餃子が大好きなので、浜松餃子大使になりたいです(笑)

山崎由貴 profile
浜松市出身。浜松海の星高等学校(現:浜松聖星高等学校)を経て、名古屋音楽大学器楽科を首席卒業。第3回J.E.T.A.学生ソロコンクールユーフォニアム・シニア部門第1位。チェジュ国際金管打楽器コンクールユーフォニアム部門2018,2020第3位。東京藝術大学別科を修了。桜丘高等学校音楽科非常勤講師。フィルハーモニックウインズ浜松団員。現在は東京を中心にフリー奏者として活動中。ユーフォニアム五重奏『狛狼座』、ユーフォニアム・チューバアンサンブル『Ueno Bass Clef』メンバー。これまでにユーフォニアムを露木薫・小久保まいの各氏に師事。

浜松アーツ&クリエイション市民活動支援セミナー

イベント (3.20(土) 14:00-15:30[開場13:30])

ヨシダナギ トークイベント
「好きなことをやり抜く力」

TBS系列で放送された「クレイジージャーニー」で話題になったフォトグラファー、ヨシダナギさんが登場します。少数民族や先住民族からドラァグクイーンまで、世界を巡り撮影を続ける彼女の行動力の源泉を、その作品とともにお話しいただきます。

会　　場	アクトシティ浜松コングレスセンター 52会議室
参 加 費	無料
定　　員	100名
申込方法	浜松アーツ&クリエイションのホームページよりお申し込みください。

ヨシダナギ

1986年生まれ。フォトグラファー。独学で写真を学び、2009年より単身アフリカへ。以来アフリカをはじめとする世界中の少数民族を撮影、発表。唯一無二の色彩と直感的な生き方が評価され、2017年には日経ビジネス誌で「次代を創る100人」、雑誌PEN「Penクリエイター・アワード 2017」へ選出。講談社出版文化賞 写真賞を受賞。2025年大阪・関西万博では公式ロゴの選定委員に就任。近年は阿寒湖イコロシアター「ロストカムイ」キービジュアル撮影。山形県「ものつくり」プロモーションのムービーディレクション、タヒチ航空のプロモーションビジュアル撮影など、国内外での撮影やディレクションなどを多く手がける。

イベント (3.21(日) 15:00-16:00[開場14:30])

詩歩 トークショー
「地域に眠る観光資源をプロデュースしてみよう！～日本の絶景と世界の絶景～」

「死ぬまでに行きたい！世界の絶景」プロデューサーで、浜松市やらまいか大使でもある詩歩さんに、今まで訪れた世界の絶景から日本の絶景まで、撮影のエピソードをお話しいただくとともに、コロナ禍においてヒトの移動が制限された今、国内の自治体と一緒に詩歩さんが手がけた取り組みをご紹介いただきます。

会　　場	クリエート浜松53会議室
参 加 費	無料
定　　員	40名
申込方法	浜松アーツ&クリエイションのホームページよりお申し込みください。

詩歩（「死ぬまでに行きたい！世界の絶景」プロデューサー）

1990年生まれ。静岡県出身。世界中の絶景を紹介するFacebookページ「死ぬまでに行きたい！世界の絶景」を運営し、70万以上のいいね！を獲得し話題に。書籍シリーズも累計63万部を突破、アジア等海外でも出版される。昨今の“絶景”ブームを牽引し、流行語大賞にもノミネートされた。
現在はフリーランスで活動し、旅行商品のプロデュースや自治体等の地域振興のアドバイザーなどを行っている。静岡県・浜松市観光大使。

新型コロナウイルス感染防止対策へのご協力のお願い

- マスクの常時着用、咳エチケット、入場時の手指消毒や検温へのご協力をお願いします。
- 万が一、感染者が発生した場合、参加者のお名前と連絡先を保健所に情報提供をする可能性があります。
- 右の条件に該当されるお客様はご来場をご遠慮ください。

①37.5度以上の発熱の症状もしくは体調に不安のある方。
②マスクをご着用いただけない方（マスクは各自でご用意ください）。
③新型コロナウイルス感染症陽性とされた方との濃厚接触がある方。
④セミナー開催日から遡って2週間以内に海外から日本へ入国された方。

今号の表紙

制作者
野村ちひろ
（画家・グラフィックデザイナー）

表紙テーマ
エール

野村ちひろ profile

1979年、青森県八戸市生まれ。
主にアクリル画で抽象的な表現の絵を描いています。太陽や月や水、植物や花の絵が多いです。
自然や音楽からエネルギーやインスピレーションを受け取り、心のままに色彩をキャンバスへ落とし込む描き方です。即興を得意としており、ライブペイントもします。
出張でお絵描き教室やワークショップ、雑貨の販売などを行なっています。
[Web] http://chihiro-nomura.com/　　[Instagram] @chihiro_design_studio

作品制作にあたって

新しい何かをはじめるということは、今までのあたたかで安心なところから、薄暗くてよく見えないところに向けて進んでいくようなもの。
それでも行くと決めた誰かへ「1人じゃないよ、一緒にいるよ」という気持ちで寄り添い、共感し、行動すること。
これもまた、静かなエールの形。
今まで関わってくれた人からの想いが時間を超えて、この世とあの世の境も超えて、心に届くこともあるでしょう。
それぞれが自分にできることをして、だれかにエールを送ったり、エールを受け取ったりする。
そんな、あたたかなやり取りの方法を身につけるために、今があるのかな。
そんなことを考えながら描きました。

テーマ選定理由

春は出会いと別れの季節ですね。また、節目の時期でもあり、新しい生活や新しいことにチャレンジする方もいらっしゃるかもしれません。昨年、世界の日常は一変し、私達は少しずつ新しい生活様式に慣れてきましたが、そんな私達の生活も、医療従事者の方々を含め多くの方が支えてくださっていることによって成り立っています。全ての人々に感謝の気持ちとエールを送りたい、そんな気持ちを込めてテーマを設定しました。（浜松アーツ&クリエイション事務局）

発行元／公益財団法人浜松市文化振興財団
〒430-7790 浜松市中区板屋町111-1　TEL 053-451-1158
http://www.hamamatsu-artscreation.jp

Facebook @HamamatsuArtsAndCreation
Twitter @hamamatsu_a_c
Instagram @hamamatsu_a_c

浜松アーツ&クリエイション Hamamatsu Arts & Creation

文化庁
令和２年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業